便利の道具、だが頼り過ぎず

～パソコン・インターネット生活の功罪～

石川県青少年健全育成指導員連絡会副会長
遠藤　正博

個性が消えた時代へ

私には、今年三十歳になった娘がいる。その娘が一歳を過ぎた頃だろうか、パソコンの前に座らせて撮った色あせた写真がある。

当時のパソコンは、今と比較できないくらい性能が悪く、トラブルも多く作業に時間がかかったものだった。漢字の文字を打ち出すことができたのは、その数年後、ワープロ専用機が普及し始めた頃であった。

ワープロ機は、事務連絡の文章など、個性を必要としない役所にたちまち普及した。

しかし、手書きの文章と違い、その文章は誰が作った文章か、本人のハンコでも押さないかぎり分からないという欠点があった。手書き文字から画一された活字文字になり、文字から個性が消えた時代の始まりであったように思う。

登録がないと動かない社会

ところで現在、超小型パソコンと携帯電話が一体となったスマートホンが普及している。羽咋であっても、東京であろうとも、電車の中では学生はいうに及ばず多くの人が、小さな画面とにらめっこしているのを見かける。

これらを使うことによる功罪の功をと言われれば、情報交換の便利な道具であり、音楽であれ動画であれ、メール、フェイスブック、ライン等々、枚挙に暇がないほどある。

罪の部分と言われれば、漢字を忘れるようになったとか、書けなくなったというのも主要な罪の部分ではある。それにも増して罪なのは、個性ある手書き文字で本人と認識できないので、やたらパスワードとか、ID（アイディ）とかの登録が多い点である。そのパスワードとか、IDが分からなければ、本人として認められない場合がある。本人が目の前にいるではないかと、大声で怒鳴ってみても何も動かない社会になってしまっているのである。

たまには離れた生活も

それは、パソコンやスマートホンに情報や生活を頼っていると、一旦トラブルが起きた時には、その情報機器に関連することは、何も動かない社会をも意味している。一、二年前になるが、イギリスに教育事情視察した時に、彼の国では子どもたちに文明社会の道具を使わない一週間以上の野外生活を義務付けていることを思い出した。

私は、パソコンやインターネットはあくまで、私たちの生活を便利にする道具であるということを、この原稿を書きながら考えさせてもらった。

（世連石川理事、羽咋市）

写真「さんしゅゆ（山茱萸）」中谷 はじむ（金沢市・世連石川会員）

昨秋、卯辰山公園健康交流センター千寿閣で開かれた中谷はじむ写真展「色あざやかな秋を撮る」から。金沢市兼六園で撮影したもので、ここには「さんしゅゆ」は一本しかないという。

俳句　冬の日

中村なづな
（俳人・金沢市＝世連石川会員）

高層の宴もかき消ゆ北しぶき
神渡しとぼそいつしか開いてをり
出し抜けに地鳴りしてくる冬の雷
盤上の碁石ゆるゆる冬の雷
かじけ猫かたちぐの目をしてをりぬ
日あたれば猖々木も遊び初む
思いがけぬ高さにありて冬さうび

事務局日誌（12）

7・1　世連ポスター・作文コンクール募集始まる
8・1　「世界連邦石川」第47号発行
8・1　北陸愛善会支部長に上山桂樹氏選任届け
9・14　執行理事会。平口理事長出席（衆議院第二議員会館）
10・11　世連石川県連理事会（アトリオ4階）
10・18　石川県連の世界連邦推進小中学生ポスター・作文コンクール審査会（石浦神社）
10・26　執行理事会。平口理事長出席。（衆議院第二議員会館）
11・8～14　ポスター・作文コンクール県内優秀作品を展示（香林坊アトリオ2階）
11・10　石川県連秋の講演会とポスター・作文コンクール表彰式（金沢エクセルホテル東急5階）。講師は木戸寛孝世界連邦運動協会常務理事・NPO法人世界連邦21世紀フォーラム代表
12・7　執行理事会。平口理事長出席（千代田区立日比谷図書文化館）

編集後記

年2回発行しているこの会報の製作を、第29号から、前任の故橋爪義守さんからバトンを受けて10年目になる。早いもので感慨無量である。近時、若い人にバトンタッチしたい気持ちが募るばかり。世界連邦運動は、足元と先行きを両にらみしながら進めていかなければならない。足元の課題の一つは、若い世代とどう結びついていくかということだろう。今号は、そんな課題を考えさせてくれる材料が揃っている。（S）